

四半期報告書

(第131期第2四半期)

自 2022年7月1日

至 2022年9月30日

中外鋳業株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目4番1号

目 次

頁

表 紙

第一部	企業情報	1
第1	企業の概況	1
1	主要な経営指標等の推移	1
2	事業の内容	2
第2	事業の状況	3
1	事業等のリスク	3
2	経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
3	経営上の重要な契約等	4
第3	提出会社の状況	5
1	株式等の状況	5
(1)	株式の総数等	5
(2)	新株予約権等の状況	5
(3)	行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4)	発行済株式総数、資本金等の推移	5
(5)	大株主の状況	6
(6)	議決権の状況	7
2	役員の状況	7
第4	経理の状況	8
1	四半期連結財務諸表	9
(1)	四半期連結貸借対照表	9
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
	四半期連結損益計算書	11
	四半期連結包括利益計算書	12
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
2	その他	20
第二部	提出会社の保証会社等の情報	21

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月14日
【四半期会計期間】	第131期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	中外鉱業株式会社
【英訳名】	Chugai Mining Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西元 丈夫
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号
【電話番号】	(03) 3201-1541 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 小原 淳史
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号
【電話番号】	(03) 3201-1541 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 小原 淳史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第130期 第2四半期連結 累計期間	第131期 第2四半期連結 累計期間	第130期
会計期間	自2021年 4月1日 至2021年 9月30日	自2022年 4月1日 至2022年 9月30日	自2021年 4月1日 至2022年 3月31日
売上高 (千円)	21,437,527	42,973,872	51,590,216
経常利益 (千円)	216,694	338,919	509,019
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (千円)	175,399	134,906	546,852
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	175,399	134,906	546,852
純資産額 (千円)	6,696,570	6,913,902	7,067,230
総資産額 (千円)	8,614,902	9,764,553	9,833,373
1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	0.61	0.47	1.89
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	77.73	70.81	71.87
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△601,987	△989,985	356,589
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△140,030	△54,584	△198,826
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	312,584	199,486	△19,268
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高 (千円)	3,527,590	3,250,435	4,095,519

回次	第130期 第2四半期連結 会計期間	第131期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2021年 7月1日 至2021年 9月30日	自2022年 7月1日 至2022年 9月30日
1株当たり四半期純損失金額 (△)	(円) △0.06	△0.30

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和等もあり、社会・経済活動の正常化に向けた動きが見られたものの、急速な円安進行に伴う物価高騰に加え、半導体をはじめとした部材・原材料等の供給不足、ウクライナ情勢長期化の影響等、先行き不透明な状況が続いております。

このような経済状況のもと、当社グループ(当社及び連結子会社)は、貴金属市況において、金価格は、米国の利上げによる影響等により下落基調で推移しているものの、インフレ加速による景気後退懸念や新型コロナウイルス感染症、地政学リスク等の影響から高値圏を維持しております。業績については金・白金族の集荷量が当初見込みを上回ったことや宝飾品の販売が好調であったことから堅調に推移いたしました。不動産市況においては、住宅ローン減税や低金利の継続等、住宅購買環境は良好であるものの、地価高止まりや建築資材の高騰等、事業環境は厳しい状況の下、都内収益物件の販売を行う等により、業績は改善傾向で推移いたしました。機械市況においては、電気自動車や半導体関連等の受注増加から内外需ともに回復基調であったことから、業績は改善傾向で推移いたしました。コンテンツ事業においては、中国ロックダウンの影響により一部商品に納期遅延が生じたものの、人気タイトルのグッズ販売が好調であったことから、業績は堅調に推移いたしました。

①財政状態

当第2四半期末における総資産の残高は、前連結会計年度末より68,819千円減少し、9,764,553千円となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末より15,015千円増加し、7,346,507千円となりました。

増加の主なものは、売掛金の増加(210,671千円から737,163千円へ526,491千円の増加)及び商品及び製品の増加(1,808,813千円から2,165,311千円へ356,498千円の増加)であります。

減少の主なものは、現金及び預金の減少(4,095,519千円から3,250,435千円へ845,083千円の減少)及び原料及び貯蔵品の減少(632,262千円から447,523千円へ184,739千円の減少)であります。

固定資産の残高は、前連結会計年度末より83,835千円減少し、2,418,046千円となりました。

増加の主なものは、繰延税金資産の増加(98,100千円から198,926千円へ100,825千円の増加)であります。

減少の主なものは、建物及び構築物の減少(458,851千円から241,214千円へ217,636千円の減少)であります。

流動負債の残高は、前連結会計年度末より24,086千円増加し、2,447,095千円となりました。

増加の主なものは、短期借入金の増加(700,000千円から1,217,500千円へ517,500千円の増加)であります。

減少の主なものは、買掛金の減少(349,046千円から233,395千円へ115,651千円の減少)及び前受金の減少(1,089,731千円から763,044千円へ326,686千円の減少)であります。

固定負債の残高は、前連結会計年度末より60,420千円増加し、403,555千円となりました。

純資産の残高は、前連結会計年度末より153,327千円減少し、6,913,902千円となりました。

増加の主なものは、資本剰余金の増加(6,148,926千円の増加)であります。

減少の主なものは、資本金の減少(6,248,926千円から100,000千円へ6,148,926千円の減少)であります。

②経営成績

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は42,973,872千円(前年同四半期21,437,527千円 100.5%増)、営業損益は371,370千円の利益(前年同四半期253,740千円の利益)、経常損益は338,919千円の利益(前年同四半期216,694千円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損益は、繰延税金資産の計上の一方で解体費用引当金繰入額及び減損損失の計上もあり、134,906千円の利益(前年同四半期175,399千円の利益)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

貴金属事業におきましては、売上高は40,792,794千円(前年同四半期19,286,900千円)、営業損益は402,475千円の利益(前年同四半期172,106千円の利益)となりました。

不動産事業におきましては、売上高は331,405千円(前年同四半期53,037千円)、営業損益は1,717千円の損失(前年同四半期5,641千円の損失)となりました。

機械事業におきましては、売上高は500,675千円(前年同四半期428,634千円)、営業損益は18,275千円の利益

(前年同四半期4,693千円の利益)となりました。

コンテンツ事業におきましては、売上高は1,319,630千円(前年同四半期1,646,472千円)、営業損益は171,779千円の利益(前年同四半期287,501千円の利益)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末より845,083千円減少し、3,250,435千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は989,985千円(前年同四半期は601,987千円の使用)となりました。これは主に解体費用引当金の増減額100,000千円及び減損損失198,402千円等による資金の増加があったものの、売上債権の増加額526,491千円及び前受金の減少額326,686千円等の資金の減少があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は54,584千円(前年同四半期は140,030千円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出22,353千円等の資金の減少等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は199,486千円(前年同四半期は312,584千円の獲得)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出252,143千円及び配当金の支払額283,383千円等による資金の減少があったものの、短期借入れによる収入517,500千円及び長期借入れによる収入220,000千円の資金の増加があったことによるものであります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,158,900,000
計	1,158,900,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	289,747,982	289,747,982	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	289,747,982	289,747,982	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(千株)	発行済株式総数 残高(千株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2022年8月15日 (注)	—	289,747	△6,148,926	100,000	—	—

(注) 2022年6月29日開催の第130回定時株主総会の決議により、資本金の額を6,148,926千円減少し、その減少額の全額をその他資本剰余金に振り替えております。なお、資本金の額の減少の効力発生日は、2022年8月15日であります。

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合（%）
有限会社マイネン	東京都中央区日本橋三丁目2番14号	181,606	6.30
株式会社フェンテ	東京都渋谷区円山町6番7号	136,871	4.75
有限会社メティス	東京都中央区銀座一丁目27番8号	120,359	4.18
株式会社プレサージュ	東京都品川区西五反田二丁目7番11号2階	117,413	4.07
有限会社ライデンシャフト	東京都中央区日本橋兜町17番1号-706	112,780	3.91
株式会社C o l l c o	東京都中央区日本橋二丁目1番17号2階	105,141	3.65
BOOCSダイエット株式会社	東京都目黒区目黒一丁目4番16号7階	100,756	3.50
株式会社ムーンズティア	東京都渋谷区広尾一丁目3番18号	98,954	3.43
東京産業株式会社	東京都世田谷区奥沢五丁目1番11号-202	93,798	3.25
有限会社ブラフィット	東京都江戸川区西葛西二丁目18番1号-303	93,371	3.24
計	—	1,161,050	40.28

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,533,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 287,914,300	2,879,143	—
単元未満株式	普通株式 300,682	—	—
発行済株式総数	289,747,982	—	—
総株主の議決権	—	2,879,143	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が23,600株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数236個が含まれております。

② 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
中外鉱業株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号	1,533,000	—	1,533,000	0.53
計	—	1,533,000	—	1,533,000	0.53

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について監査法人ハイビスカスによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,095,519	3,250,435
売掛金	210,671	737,163
商品及び製品	1,808,813	2,165,311
仕掛品	479,572	536,947
原材料及び貯蔵品	632,262	447,523
仕掛不動産	54,099	72,165
預け金	194	194
その他	90,426	176,834
貸倒引当金	△40,068	△40,068
流動資産合計	7,331,491	7,346,507
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,165,708	973,694
減価償却累計額	△706,857	△732,479
建物及び構築物（純額）	458,851	241,214
機械装置及び運搬具	526,661	551,158
減価償却累計額	△477,556	△481,276
機械装置及び運搬具（純額）	49,104	69,882
土地	1,472,391	1,472,391
その他	149,284	149,765
減価償却累計額	△118,502	△121,685
その他（純額）	30,781	28,079
建設仮勘定	24,500	9,075
有形固定資産合計	2,035,628	1,820,643
無形固定資産		
コンテンツ資産	—	7,200
その他	18,586	16,720
無形固定資産合計	18,586	23,920
投資その他の資産		
投資有価証券	100,071	110,071
出資金	120,585	120,615
敷金及び保証金	123,846	138,805
繰延税金資産	98,100	198,926
その他	5,063	5,063
投資その他の資産合計	447,666	573,481
固定資産合計	2,501,881	2,418,046
資産合計	9,833,373	9,764,553

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	349,046	233,395
短期借入金	700,000	1,217,500
関係会社短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	64,286	64,286
未払金	30,069	28,119
未払法人税等	27,133	6,835
前受金	1,089,731	763,044
契約負債	2,986	642
その他	109,754	83,271
流動負債合計	2,423,008	2,447,095
固定負債		
長期借入金	106,129	73,986
金属鉱業等鉱害防止引当金	3,953	3,953
解体費用引当金	—	100,000
預り敷金保証金	9,495	4,527
資産除去債務	207,455	207,455
その他	16,102	13,633
固定負債合計	343,134	403,555
負債合計	2,766,143	2,850,650
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,248,926	100,000
資本剰余金	—	6,148,926
利益剰余金	899,692	746,384
自己株式	△81,389	△81,407
株主資本合計	7,067,230	6,913,902
純資産合計	7,067,230	6,913,902
負債純資産合計	9,833,373	9,764,553

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	21,437,527	42,973,872
売上原価	20,374,936	41,575,387
売上総利益	1,062,590	1,398,484
販売費及び一般管理費	※1 808,850	※1 1,027,114
営業利益	253,740	371,370
営業外収益		
受取利息及び配当金	12	13
国庫補助金収入	8,947	8,703
その他	1,550	2,625
営業外収益合計	10,510	11,342
営業外費用		
支払利息	3,246	5,136
休山管理費	37,123	35,612
その他	7,186	3,044
営業外費用合計	47,557	43,793
経常利益	216,694	338,919
特別利益		
固定資産売却益	593	399
特別利益合計	593	399
特別損失		
解体費用引当金繰入額	—	100,000
固定資産除却損	3,561	—
減損損失	—	※2 198,402
特別損失合計	3,561	298,402
税金等調整前四半期純利益	213,726	40,917
法人税、住民税及び事業税	39,535	6,835
法人税等調整額	△1,208	△100,825
法人税等合計	38,327	△93,989
四半期純利益	175,399	134,906
親会社株主に帰属する四半期純利益	175,399	134,906

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	175,399	134,906
四半期包括利益	175,399	134,906
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	175,399	134,906

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	213,726	40,917
減価償却費	43,697	40,800
契約負債の増減額 (△は減少)	201	△2,344
解体費用引当金の増減額	—	100,000
受取利息及び受取配当金	△12	△13
支払利息	3,246	5,136
補助金収入	△8,142	△8,947
有形固定資産売却損益 (△は益)	△593	△399
有形固定資産除却損	3,561	—
減損損失	—	198,402
売上債権の増減額 (△は増加)	14,956	△526,491
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△689,259	△247,199
仕入債務の増減額 (△は減少)	△80,911	△115,651
未払金の増減額 (△は減少)	△1,643	△1,950
前受金の増減額 (△は減少)	51,079	△326,686
預り金の増減額 (△は減少)	47,671	3,623
その他	△170,761	△149,537
小計	△573,182	△990,341
利息及び配当金の受取額	12	13
利息の支払額	△3,246	△5,135
補助金の受取額	8,142	8,947
法人税等の支払額	△33,713	△3,469
営業活動によるキャッシュ・フロー	△601,987	△989,985
投資活動によるキャッシュ・フロー		
出資金の払込による支出	△110,980	△30
投資有価証券の取得による支出	—	△10,000
有形固定資産の取得による支出	△21,298	△22,353
有形固定資産の売却による収入	600	440
有形固定資産の除却による支出	△3,146	—
無形固定資産の取得による支出	△2,055	△7,200
敷金及び保証金の回収による収入	920	912
敷金及び保証金の差入による支出	△4,070	△16,354
投資活動によるキャッシュ・フロー	△140,030	△54,584
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	517,500
長期借入れによる収入	400,000	220,000
長期借入金の返済による支出	△34,923	△252,143
自己株式の取得による支出	△50,023	△18
配当金の支払額	—	△283,383
その他	△2,468	△2,468
財務活動によるキャッシュ・フロー	312,584	199,486
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△429,433	△845,083
現金及び現金同等物の期首残高	3,958,425	4,095,519
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,400	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,527,590	3,250,435

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期を含む仮定について重要な変更はありません。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「前受金の増減額」は、金額的重要性が増したため、当第2四半期連結累計期間より、独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた△119,681千円は、「前受金の増減額」51,079千円、「その他」△170,761千円として組み替えております。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
給料	339,906千円	417,770千円
支払手数料及び業務委託料	90,164	219,173
地代家賃	50,799	56,723

※2 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
東京都品川区	賃貸用不動産	建物及び構築物

当社グループは、事業用資産について主に店舗を基本単位としてグルーピングを行っております。

2022年11月11日開催の取締役会において、東京都品川区内の老朽化した建物の建て替えを行うことを決議したため、当該資産の帳簿価額を備忘価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に198,402千円計上しました。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	3,527,590千円	3,250,435千円
現金及び現金同等物	3,527,590	3,250,435

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

I 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当に関する事項

・配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当金 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	288,215	利益剰余金	1.00	2022年3月31日	2022年6月30日

2. 株主資本の金額の著しい変動

2022年6月29日開催の第130回定時株主総会決議により、2022年8月15日付で資本金を減少させ、その全額をその他資本剰余金へ振り替えております。この結果、資本金が6,148,926,581円減少し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が100,000,000円、その他資本剰余金が6,148,926,581円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2
	貴金属事業	不動産事業	機械事業	コンテンツ 事業			
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	19,286,900	45,672	427,681	1,646,472	30,800	21,437,527	—
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	7,365	952	—	—	8,317	△8,317
計	19,286,900	53,037	428,634	1,646,472	30,800	21,445,845	△8,317
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	172,106	△5,641	4,693	287,501	△10,409	448,250	△194,510

	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高	
(1) 外部顧客への 売上高	21,437,527
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—
計	21,437,527
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	253,740

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、太陽光発電による売電収入、不動産賃貸収入及びインターネットカフェ事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△194,510千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△194,510千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2
	貴金属事業	不動産事業	機械事業	コンテンツ 事業			
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	40,792,794	324,040	499,905	1,319,630	37,501	42,973,872	—
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	7,365	770	—	—	8,135	△8,135
計	40,792,794	331,405	500,675	1,319,630	37,501	42,982,007	△8,135
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	402,475	△1,717	18,275	171,779	△5,493	585,320	△213,949

	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高	
(1) 外部顧客への 売上高	42,973,872
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—
計	42,973,872
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	371,370

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、太陽光発電による売電収入、不動産賃貸収入及びインターネットカフェ事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△213,949千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△213,949千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「不動産事業」セグメントにおいて、建物及び構築物の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において198,402千円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	貴金属事業	不動産事業	機械事業	コンテンツ 事業		
貴金属製品販売	18,394,013	—	—	—	—	18,394,013
宝飾品販売	892,886	—	—	—	—	892,886
不動産販売	—	25,624	—	—	—	25,624
中古工作機械販売	—	—	427,681	—	—	427,681
グッズ販売	—	—	—	1,603,798	—	1,603,798
複合カフェ	—	—	—	29,559	26,711	56,271
その他	—	1,521	—	13,114	3,518	18,153
顧客との契約から生じる収益	19,286,900	27,145	427,681	1,646,472	30,230	21,418,430
その他の収益	—	18,527	—	—	570	19,097
外部顧客への売上高	19,286,900	45,672	427,681	1,646,472	30,800	21,437,527

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、太陽光発電による売電収入、不動産賃貸収入及びインターネットカフェ事業を含んでおります。

また、「その他の収益」は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産収入です。

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	貴金属事業	不動産事業	機械事業	コンテンツ 事業		
貴金属製品販売	39,799,731	—	—	—	—	39,799,731
宝飾品販売	993,062	—	—	—	—	993,062
不動産販売	—	311,993	—	—	—	311,993
中古工作機械販売	—	—	499,905	—	—	499,905
グッズ販売	—	—	—	1,212,653	—	1,212,653
複合カフェ	—	—	—	92,880	33,378	126,259
その他	—	912	—	14,097	3,523	18,533
顧客との契約から生じる収益	40,792,794	312,905	499,905	1,319,630	36,902	42,962,139
その他の収益	—	11,134	—	—	598	11,733
外部顧客への売上高	40,792,794	324,040	499,905	1,319,630	37,501	42,973,872

（注）「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、太陽光発電による売電収入、不動産賃貸収入及びインターネットカフェ事業を含んでおります。

また、「その他の収益」は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産収入です。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	0円61銭	0円47銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	175,399	134,906
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純利益金額 (千円)	175,399	134,906
普通株式の期中平均株式数 (千株)	289,168	288,215

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月11日

中外鉱業株式会社

取締役会 御中

監査法人ハイビスカス

東京事務所

指定社員 公認会計士 高橋 克幸
業務執行社員

指定社員 公認会計士 森崎 恆平
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている中外鉱業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、中外鉱業株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業

として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月14日
【会社名】	中外鉱業株式会社
【英訳名】	Chugai Mining Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西元 丈夫
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長西元丈夫は、当社の第131期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。